

ながはま見聞録

Nagahama Hotnews

7月18日(木) 災害時の新たな備え

滋賀県電気工事工業組合が、社会貢献として災害発生時に利用できる「インバータ発電機」を市に寄附されました。

「インバータ発電機」は、周波数や出力が安定し、パソコンや精密器を使用できるほか、低騒音で軽量という長所を持っています。

同組合の鹿野理事長は「災害時などに有効活用してほしい」と話しました。



7月20日(土) 体験を通じて学ぶ「働く楽しさと大切さ」

長浜北小学校で、同校のPTA事業「わーくワーク北小タウン2019」が開催されました。

パティシエや大工、警察官や美容師など様々な職種があり、子どもたちはそれぞれ希望する職業を体験します。市民広報課が提供した「記者体験」には、1年生から5年生までの児童5人が参加。他の職業体験会場を取材して記事を書き、「北小タウン新聞」を完成させるという仕事を体験しました。

7月22日(月) ベトナムへの企業誘致を市長に協力要請

ベトナム・ハナム省の訪日団が市長を表敬訪問しました。

ハナム省は首都ハノイに隣接し、日系企業が約100社進出しており、2017年に日系企業専用の工業団地を開設。市内の企業では大塚産業マテリアルなど5社が進出しています。

市への訪問は昨秋、市長が同省を視察した縁で実現しました。

市長は「長浜市とハナム省が交流を深め、お互いが発展することを期待します」と話しました。



7月27日(土) びわ湖の恵みに感謝する1日

湖北町尾上漁港一帯で「水とロマンの祭典～ありがとう、びわ湖～」が開催されました。

模擬店やスタンプラリー、びわ湖の天然ビワマスの造りや小鮎の佃煮などが食べられる「夏グルメ」など様々な催しが行われました。

参加者はびわ湖の幸に舌鼓を打ちながら、夏の日を満喫していました。

長浜市公式 SNS

- 長浜の催しや風景など、自慢の一枚をInstagramに投稿してください。長浜市公式Instagramアカウント「# みんなのちょぴつく」で紹介します。詳しくは市ホームページをご覧ください。
- 見聞録のイベントは市公式 Facebook ページでもさらに詳しくみることができます。



▲市ホームページ



▲ほっとにゆ〜す

8月2日(金) 英語でのコミュニケーションを楽しんだ一日

あざいカルチャー&スポーツビレッジで「ながはま英語デイクャンプ」が開催されました。

市内在住の小中学生約40人が9つのグループに分かれ、ALT(外国人指導助手)らと英語で会話。様々なゲームをして英語への親しみを深めました。

参加した児童や生徒たちは、「普段と違う言葉でしゃべれて楽しい」と笑顔で取り組んでいました。



8月3日(土) 水の大切さを学びました

長浜水道企業団で、水道水が作られる仕組みを学ぶ「夏休み親子水道教室」が開催されました。

長浜水道企業団の給水区域に住む親子33組88人が浄水場探検、プランクトン観察、ペットボトルを活用したろ過装置作り、応急給水体験を行いました。

下坂浜浄水場の浄水方法をもとにしたろ過装置作りでは、きれいになった水に驚きの声が上がりました。

8月3日(土)、4日(日) 観客を引き込む世界観

長浜文化芸術会館で、地元の若手演劇人らによる舞台公演「湖国シェイクスピア 夏の夜の夢」が開催されました。この公演は長浜文化芸術会議「はまかるNEXT」が主催したものです。

2日間で3回の公演が行われ、800人を越える観客が公演を楽しみました。

出演者はシェイクスピアの喜劇を演じ上げ、会場から歓声と拍手が沸き起こりました。



8月5日(月) 県内初 1 万発の花火とビームライティングの競演

「長浜・北びわ湖大花火大会」が長浜港一帯で開催されました。令和元年記念となった今年の花火大会の特色は、光の演出。照明演出家の一柳忠彦さんが手がけるビームライティングにより、県内でも初となる「光と音の競演」が実現しました。

最後は「おめでとう令和一未来へー」と題した超特大のスターマイン。音と光が織りなすスペクタクルに会場の盛り上がりは最高潮に達し、まさに感動のフィナーレとなりました。